

女川町 支援活動レポート

2013.12.21～ 2013.12.22

(宮城県牡鹿郡女川町 コンテナ村商店街)



頑張ろう日本！ 頑張ろう東北！



平成25年12月27日(金)
東北被災地応援団 白金支部

女川町 支援活動レポート

東日本大震災により、亡くなられた方のご冥福を、心からお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に対し、心からお見舞い申し上げます。一日も早い復興を、心からお祈り申し上げます。

1. はじめに

この度の訪問は、宮城県女川町復興サポート「REALeYE」さんからお声がけにより、女川町コンテナ村商店街の「灯～TOMOSHIBI～」の点灯式のお手伝いにお伺いさせていただきました。震災後、何もなくなってしまった町の中心部は、屋間は灰色の土地が広がり、夜になれば真っ暗になります。嵩上げ工事が進められていますが、まだまだ街灯も少なく、日の入りの早い冬の時期は、町の方は暗い夜をより長く感じられるのではないのでしょうか。そんな中、近所を通る方にイルミネーションの灯りを見て、少しでもほっとして、温かい気持ちになっていただこうと、コンテナ村商店街の方々と、「REALeYE」さんが協力して始められたイベントです。震災後の1度目の冬から始められ、今年で3度目となりました。1年目からお誘いいただいている私共、東北被災地応援団 白金支部も、今回で3回目の参加となりました。

震災後女川町内でいち早く仮設商店街としてオープンされた、ここ女川町コンテナ村商店街は、お花屋さん、飲食店、電気店、雑貨、食料品など、10店舗がコンテナハウスを使って営業されています。私共の通常の活動でも「マルカネ阿部商店」さんや、「相喜フルーツ」さんにはいつも大変お世話になっております。今後、造成などによる近隣の通行止めなどの予定があるそうで、来客の移動の便が心配されます。早く落ち着いて営業をされたいとの思いではないかと思えます。コンテナ村商店街の皆さんにとっても、このイルミネーションは、心を和らげてくれる優しい光のイベントになっているように思います。



コンテナ村商店街のアーチにイルミネーションの取り付けが行われていました



夜になると色とりどりの光がやさしくコンテナ村商店街を包みます

2. 活動報告

今回は、女性3名、男性2名、レンタカー1台での訪問となりました。少人数のチームとなりましたが、後方支援の後押しもあり、参加メンバー全員でまともによく活動させていただきました。

以下、活動について、報告させていただきます。

(1) 活動内容

- A. 活動日程 2013年12月21日(土)より12月22日(日)
- B. 目的地 女川町コンテナ村商店街
- C. 活動内容 「灯～TOMOSHIBI～」点灯式にブース出店
 - ① ホルモン焼き 50食分
 - ② もつ煮込み 70食分
 - ③ ミラクル輪投げ 20回分

(2) 活動レポート

2013年12月上旬

「REALeYE」さんからコンテナ村商店街で行われる「灯～TOMOSHIBI～」の点灯式に、出店の打診をいただきました。先日、東日本を襲った大型台風によって、コンテナ村の入り口を飾っていたアーチが壊されてしまったという話を伺っていましたが、埼玉県のトラストホームさんのご支援でアーチが再建され、今年も無事に光のページェントが行われることが決まったそうです。コンテナ村商店街のトレードマークのアーチの再建は私共にとっても本当に嬉しいニュースです。早速、出店をお引き受けし、参加メンバーを集めました。

2013年12月16日(月)

出店の内容が固まりました。あったか～い「もつ煮込み」と、女川町の方に一度味わっていただきかった、東京港区芝大門、東京タワー近くのホルモンの名店「ホルモン焼き 夏冬」の「ホルモン焼き」です。特製のタレと味噌でいただく鮮度抜群のホルモンは臭みがないと評判で、いつも境界のサラリーマンで賑っています。子供向けには「横浜市立万騎が原小学校はまっこ」さんよりお借りした 道具を使って、お楽しみプレゼントがもらえる「ミラクル輪投げ」をすることになりました。出発まで1週間となり、道具集めや食材準備など、後方支援者による準備が進められました。

2013年12月21日(土)

5:30

三連休の初日、車の混雑が予想されましたので、早めの集合です。前夜、レンタカーを借りてきてくれたメンバーが到着すると同時に、積み込みを始めます。「もつ煮込み」は後方支援の川端が事前に煮込みをして、あとは温めるだけの状態になっています。「ホルモン焼き」は、お店のご主人の加藤さんが、前夜お店が終わってから5キロ分のホルモンをすぐに焼けるように、切って用意して下さっていました。イベントに遊びに来てくださる方々に美味しく食べていただきたいと思いながら、手早く積み込みを済ませ、出発となりました。

10:30

予想した混雑もなく、菅生で最後の休憩を取り三陸道へ入ります。あと2時間ほどで女川町に到着の予定、受け入れ先の「REALeYE」さんにお電話を入れ、到着見込みの時間をお伝えしました。前日の悪天候により、途中、石巻付近の道に雪が残っているので気をつけて来てくださると、お気遣いの言葉をいただきました。11月の訪問のときは紅葉がみられた三陸道でしたが、山々はところどころ雪化粧ですっきり冬の景色です。

12:30

高速を降り、雪の残る石巻から女川街道を車で走らせると、右手に万石浦が見えてきました。もうすぐ女川町です。

今年は1月の針浜地区仮設住宅、石浜地区在宅の訪問から始まり、熊野神社大祭のお手伝い、復興支援バスツアー、石浜地区の方々との日帰りバスツアー、清水地区仮設住宅の集会所でのイベントなど、訪問回数の多い年でした。訪問を重ねるごとに、女川町を心のふるさとのように思う気持ちが強まってきたように感じます。マリンパル女川が見え、女川町の看板が見えると、ほっとしたような気持ちになりました。

コンテナ村商店街に到着すると、「相喜フルーツ」の相原さんが脚立にのってイルミネーションを取り付け中でした。「こんにちは！」「お世話になります！」、元気に挨拶させていただくと、笑顔で迎えてくださいました。早速荷物を降ろし、車を空にしてからホルモン焼き用の焼き台を「マルキチ阿部商店」さんの仮工場にお借りしに向かいました。



「蒲鉾本舗 高政」さんの旧工場内の「マルキチ阿部商店」さんの仮事務所



こちらで商品の発送の準備などもされているそうです

海岸から数十メートルの位置にあった「マルキチ阿部商店」さんの工場はすべてを津波で流されてしまいました。当初は再建などは考えられる状況ではなかったようですが、迅速な避難によって助かった伝統の味を守ってくださる従業員の方達、泥の中から奇跡的に見つかったお店の看板、なんとか津波の被害を免れ残っていた原材料、そして看板商品である昆布巻きの「リアスの詩」を待っていると言うお客様の声に励まされ、製造を再開されました。女川町ではたくさんのお水産加工業者の方々も再開を断念、もしくは未だに再開できる状況には至っていないのが現実です。震災後、生きることだけで精一杯だったところから、たくさんのご苦労があつての事業の再開だったことと思います。現在は「蒲鉾本舗 高政」さんの旧工場の一部を借りて昆布巻きの製造を行っていらっしゃいますが、新に造成される水産加工団地への入居が決まり、新工場建築の準備を進めていらっしゃるそうです。

お借りした焼き台をコンテナ村商店街に運び、設営の開始です。1つめのターフでは、「REALeYE」さんの「スーパーボールすくい」と応援団の「ミラクル輪投げ」を設置し、子供達が集まる場所にしました。もう一つのターフでは、「もつ煮込み」の温めを開始、お借りした焼き台も設置して、「ホルモン焼き」の準備を進めます。

14:00

準備を進めていると、早速近所の子供達が顔を覗かせました。輪投げは練習として子供達にいくつか投げてもらい、投げる位置を設定します。1回で3つの輪を投げてもらい、9つのピンにたて、横、斜めと列で投げ入れることができれば、ビンゴ賞です。他にも景品を用意しましたが、やはり一番人気はビンゴ賞の「REALeYE」さん提供のドラえもんのリュックサックです。どうやったらうまく入れられるか、アドバイスしながら、皆必死に輪を投げます。輪投げを楽しむ子供達の列は途切れず、景品も早々になくなりましたが、子供達が遠くから輪を投げたりして、いつまでも遊んでいました。街づくりが本格化するのには嵩上げ工事が終わってからです。今はこうして子供達が集まって遊べる場所が少ないことを実感しました。



輪投げには早速子供達が集まります



「鈴幸」さんによるマグロの販売も



さあ！美味しく調理です！

16:30

暗くなるにつれ、お酒を飲む大人の方も増え、「もつ煮込み」も「ホルモン焼き」も飛ぶように売れていきます。美味しかったよ！もう一回食べる！リピーターの方も続出です。「ホルモン焼き」は焼き時間がかかるため、番号をお伝えして待っていただきました。そうこうしているうちに、点灯式の時間です。点けられていた電気は一旦全て消され、「REALeYE」さんのご挨拶、「相喜フルーツ」の相原さんのご挨拶のあと、合図で一斉にイルミネーションに灯りがともりました。再建されたアーチや商店の壁沿いに取り付けられたイルミネーションの灯りが、やさしくコンテナ村全体を包み込みます。そして女川町を守る戦士、イーガーも登場し子供達も大喜び、一番の盛り上がりです。



リアスの戦士イーガーは、いつも子供のヒーロー！



イルミネーションが灯され華やかになったコンテナ村商店街

19:00

用意した食材もなくなり、そろそろ片付けの時間となりました。コンテナ村の設けられたステージでは「REALeYE」の高橋圭介さんによる弾き語りが始まっています。集まりのひと時を惜しむように、お酒を飲みながら歌に耳を傾ける方、まだ遊び足りないのか、ちゃんばらごっこをする子供達、すっかり夜になり0度に近い気温になっているはずですが、イルミネーションにつつまれたコンテナ村には緩やかな時間が流れています。そんな皆さんとここで一緒に時間を過ごさせていただき幸せを感じながら、片付けは終り、撤収となりました。

「カフェ&バー OWL (オウル)」

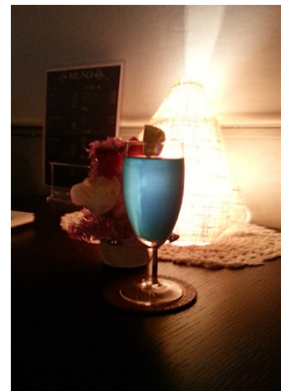
「REALeYE」さんがコンテナ村商店街のそばで「カフェ&バーOWL(オウル)」を先月オープンされました。片付けが完了した後、お邪魔させていただきました。建物はコンテナを使用されていますが、中に一步入ると、あちらこちらに細かい装飾がされていて、とてもお洒落な店内です。昼はカフェタイム、美味しいランチや、ケーキなどを珈琲や紅茶などと一緒に楽しめます。夜はバータイムです。「REALeYE」の高橋ご夫婦のお人柄があっけか、夜な夜な女川町を牽引する方々が集まり、熱い会話が交わされているようです。女川町ではこれまでなかったような、ランチから食後のお酒までを楽しめるお店を作りたいと、オープンされたそうです。年長者の意見が尊重される地方の小都市では、こういった新しい試みは受け入れられないことが多いようですが、ここ女川町では年長者の方々が若い方のこうした試みを歓迎、後押しをしてくださるとのこと、ゆくゆくは、造成が済んだ町に店舗を移したいとお考えのようです。



お洒落な演出が
あちらこちらに



「鍵でドアを開けるより、笑顔で心の扉を開けるほうが簡単さ」



カクテル「女川の夜」

3. 活動を終えて

寒い野外での活動でしたが、訪問させていただいている仮設住宅や在宅地域の顔見知りの方々との再会や、子供達や、ホルモン焼きや、もつ煮込みを楽しんでくださった方々の笑顔で、私達にとってとても心温まるイベントでした。今年もお声がけいただきました「REALeYE」様、コンテナ村商店街の皆様、本当にありがとうございました。

4. 今後の予定

◆2月女川町訪問活動

【日程】 2月8日(土)～9日(日)

【場所】 石浜地区在宅

石浜地区在宅避難者の地域には、白金支部として、活動当初から度々お邪魔させていただき、交流させていただいておりましたが、地区全体の嵩上げ工事の為、津波の被害を免れた家屋もいったん取り壊し、地域への立ち入りがしばらく禁止となるそうです。

石浜地区の皆様が離れた地域に移転される前にお茶っこしにうかがわせていただきます。

5. 補足事項

(1) 参加者 (敬称略/順不同)

安部 由美	後藤 奈津子	瓜田 創	加藤 準一
三上 加寿子			

(2) 後方支援者 (敬称略/順不同)

小澤 雅志	川端 陽子	加藤 豊	工藤 史大
-------	-------	------	-------

(3) 資材、食材等支援提供 (敬称略/順不同)

マルキチ阿部商店(女川水産加工研究会)
ホルモン焼き夏冬

株式会社 ビー・エヌ・アイ

横浜市立万騎が原小学校はまっこ

(4) 支援金寄付 (敬称略/順不同)

ホルモン焼き夏冬

牧野 卓

野口 トシ子

(5) 現地受け入れ先

宮城県女川町復興サポート REALeYE 様

女川町コンテナ村商店街 様

皆様からの、あたたかいご支援・ご協力のうで、成り立っております。

本当にありがとうございました。

私達は、被災地への支援活動を、継続していきます。今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。



平成25年12月27日

東北被災地応援団 白石支部

工藤 史大

★東北被災地応援団 白石支部 WEBサイト★

<http://www.onagawa.e-ouen.jp>

※このレポート内にあります画像の流用及び転用は、一切禁止します。

Copyright (C) 2012 Tohokuhisaiichi-Ouendan All Rights Reserved.